共通価値の創造 日本での取り組み

共通価値の創造（CSV）とは、企業としてのあらゆる行動を通じて、株主の皆さまと社会に長期的にプラスの影響をもたらすためのネスレのアプローチです。

右の表は、ネスレ日本の共通価値の創造における実績の一部をまとめたものです。

日本でも、活動を「栄養・健康・ウェルネス」、「農村開発」、「水」、「環境サステナビリティ」、「人材、人権とコンプライアンス」の分野で行っています。

栄養・健康・ウェルネス

約140万人

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」は、2011年の開始からこれまでにのべ約7,200校の小学校から申し込みがあり、約140万人の児童に教材を提供しています。

水

－24％

自社工場の生産量は2010年から2016年までに62％増加しましたが、総直接取水量を24％削減しました。

環境サステナビリティ

－302トン

2016年、包装材料の形状変更により302トンの軽量化を達成しました。

環境サステナビリティ

－26％

自社工場の生産量は2010年から2016年までに62％増加しましたが、エネルギー使用量を26％削減しました。

人材、人権とコンプライアンス

22％

ネスレ日本は働き方改革を推進しています。2016年、社員の年間有給休暇取得平均日数は2010年と比較して22％増加しました。

人材、人権とコンプライアンス

20％

女性マネジャーの割合を2020年に20％まで引き上げる目標を掲げています。

トップメッセージ

ネスレは、世界最大の食品飲料会社です。世界191カ国に拠点を持ち、32万8,000人の従業員が、「生活の質を高め、健康な未来づくりに貢献します」というネスレの存在意義を示すために働いています。

ネスレの約150年の歴史は、栄養不足による乳児死亡率の高さに心を痛めた創業者アンリ・ネスレが、乳児用シリアルの開発に成功したことから始まります。最初の製品につけられた親鳥が雛に向かう姿勢は、アンリ・ネスレの創業の精神とともに現在も世界中で販売されるすべてのネスレ製品に受け継がれています。ネスレは、創業の時から常に社会的な問題を解決し、生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献してきました。そしてこれからも続けてまいります。

10年前、ネスレは共通価値の創造という考えを提唱しました。共通価値の創造は、ネスレの存在意義を実現していくための事業戦略です。事業を通じて社会的な問題を解決することこそが、私たちの使命、責任であり、同時に機会でもあります。私たちの事業活動から得られる経済的価値と同時に、社会的価値も生み出すことができます。

私たちネスレ日本は1913年に創業し、2013年に100周年を迎えました。少子高齢化が進む成熟先進国の日本市場で、ネスレの製品やサービスを通じて日本社会が抱えるさまざまな問題解決に取り組んでいます。それには、顧客の問題解決を第一に考えることが重要です。イノベーションを通じて共通価値の創造を実践することが鍵となるのです。皆さまから信頼される企業として社会や顧客の皆さまの抱えるさまざまな問題に対して、価値ある解決策をこれからも提案し続けていけるよう全力で取り組んでまいります。

ネスレ日本株式会社　代表取締役社長兼CEO

高岡 浩三

栄養・健康・ウェルネス

ネスレは、創業者アンリ・ネスレの精神を受け継ぎ、栄養を中心としたネスレの価値観に導かれ、生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献する製品、サービス、知識を個人と家族の皆さまにお届けするためにパートナーとともに取り組みます。この取り組みを通じて、5,000万人の子どもたちがより健康的な生活を送れるよう支援するという、ネスレの2030年に向けた長期的な目標の実現を目指します。

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」
子どもから高齢者まで幅広い世代に人気の「卓球」を取り入れた新しい運動プログラム「ヘルシーキッズ健康卓球」を開発しました。

母乳育児を支援する

ネスレ日本の視点

ネスレは、グローバルな「マタニティー保護方針」を導入し、母乳育児を支援する環境づくりを強化しました。この方針には、有給育児休暇を6カ月まで延長する権利や、柔軟な勤務体系などが定められています。現在、社内には302カ所の授乳エリアがあり、2018年までには、50人以上の女性社員のいる全事業所に授乳室を設置する予定です(グローバルパート16ページも参照ください。)

ネスレ日本でも「マタニティー保護方針」に準じて、本社および50人を超える女性社員が働くオフィスに授乳室が設置されました。

神戸本社の託児ルーム「ネスレ キッズルーム」

親や保護者、教員による子どもの健康的な行動育成を支援する

ネスレ日本の視点

2009年、ネスレは子どもの健康づくりのための教育プログラム「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」を開始しました。このプログラムは、世界中の学齢期の子どもたちの栄養・健康・ウェルネスに関する知識と実践する力の向上を目的としています。

日本では、2011年に小学校低学年を対象とした「からだづくり」支援プログラムとしてスタート、2012年には小学校の全学年に幅広く対応できるよう充実を図り、学校現場のさまざまなニーズに合うようコンテンツの充実を図っています。プログラムの開始から累計すると、すでにのべ7,200校を超える小学校から申し込みがあり、約140万人の児童に教材を提供しました。

2016年は、子どもから高齢者まで幅広い世代に人気の「卓球」を取り入れた新しい運動プログラム「ヘルシーキッズ健康卓球」を開発しました。子どもの健康づくりには、学校、地域、家庭の連携が必要です。学校のみでの展開だけでなく、地域コミュニティの活性化を推進する地方自治体や団体との取り組みも目指しています。

2014年からは、ユネスコスクール全国大会に協力企業として参加しています。「ネスレ日本ヘルシーキッズ賞」を設立し、子どもの健康づくりを目指して素晴らしい活動を続けている小学校を表彰しています。

インターナショナルシェフズデイ ×
「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」

VOICE

楽しみながら栄養の知識が身に付き、からだづくりや異世代交流ができると期待しています

ここ最近、人気が高まってきた卓球は、競技面だけでなく「健康卓球」としても注目されています。けがの心配が少なく、体力、技術、目的に合わせてどんな年齢の人でも一緒に楽しみながら健康づくりができるからです。

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」の「ヘルシーキッズ健康卓球」を通じて、楽しみながら栄養の知識が身に付き、学校や地域で取り組むことで、子どもから大人まで各世代のからだづくりや異世代交流ができると期待しています。

株式会社タクティブ 代表取締役社長
卓球で日本を元気にする会広報
佐藤 司　様

パッケージ、店頭とウェブサイトで栄養情報を表示し、説明する

ネスレ日本の視点

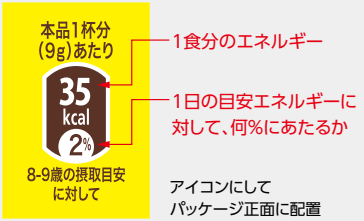
ネスレは、2005年に「ネスレ ニュートリショナルコンパス」を導入し、製品に含まれる栄養素、バランスの良い食生活のヒントなどについて情報を提供しています。

2013年には、製品パッケージに記載されているQRコードから、詳しい製品の栄養や健康情報、企業情報にアクセスできる新サービスも一部製品で開始しました。ネスレ日本でも、「ネスカフェ ボトルコーヒー」、「ネスレ ミロ」、「キットカット」(一部製品)、「ウォンカ」、「ネスレ ネスクイック」のパッケージにQRコードを表示し、情報を提供しています。

カロリーガイド表示は、製品1食分あたりのエネルギー(カロリー)が、1日の目安に対する割合を一目でわかるように表したものです。消費者の健康的な生活を支える食品選びの参考となるよう、多くのネスレ製品で表示しています。

2016年には、「ネスレ ネスクイック」と「ウォンカ」の2製品について、子ども向けのカロリーガイド表示*に切り替え、より消費機会の多い年齢の消費者層に適切な情報が発信できるよう改善しました。

子ども向けカロリーガイド表示例
(「ネスレ ネスクイック」)



*「8-9歳の摂取目安」は、「日本人の食事摂取基準(2015年版)」(8-9歳男女平均)推定エネルギー必要量(身体活動レベルⅡ:ふつう)を基準としています。

ネスレ製品のポーション(1食分)ガイダンスを提供する

ネスレ日本の視点

ネスレでは、世界中で大きな課題となっている肥満問題への取り組みとして、ポーションガイダンス(1食分を知らせるさまざまな工夫)という考え方を重視しています。

1食あたりの飲み物、食べ物のサイズは増加する傾向にあり、「健康的な1食分」を伝えることが過食の防止になるといわれています。

お客さま自身が製品のサイズや頻度で適切な1食分を理解し、判断できる助けとなるよう、ネスレ日本でも、1食分がわかるパッケージのデザインやメッセージの表示(推奨する1食分の量と摂取頻度の文言)などを提供しています。

1食分がわかるメッセージの表示例
(「ネスレ キットカット ミニ オトナの甘さ 13枚入り」)

「お菓子などの嗜好品は1日200キロカロリーまでが目安とされています。本品は1枚64キロカロリー。バランスの良い食生活の中で1日2枚までがおすすめです。」

パーソナルニュートリション(個別化した栄養)、デジタルソリューションにつながる生物医科学を推進する

ネスレ日本の視点

ネスレ ヘルスサイエンスは、全国の医療機関、介護施設やご自宅での栄養ケアにおけるさまざまなニーズに応える栄養補助食品を製造、販売し、全国約1万カ所以上の医療機関、介護施設や在宅医療の現場で使用されています。栄養評価ツールの国内での啓発と普及にも積極的に取り組んでおり、医療、介護従事者向けに、高齢者の栄養状態を簡易に評価する「MNA® (Mini Nutritional Assessment)」や、嚥下(食べ物や飲み物の飲み込み)状態を評価する「EAT-10(イートテン)」などを提供しています。

ネスレ ヘルスサイエンスの営業担当者は全員がタブレット端末を所有、いつでも必要情報に効率的にアクセスできる仕組みを活用し、栄養ケアに関連する総合的な提案を行っています。また、全国各地で開催される医学会において最新の臨床栄養に関する情報提供を行い、「栄養の力」で医療・介護現場の課題解決に貢献することを目指しています。

世界最大の食品栄養研究ネットワークを有するネスレは、2009年、全世界の製品に刷新とイノベーションをもたらす科学技術を提供することを目的にネスレ リサーチ東京を設立しました。健康、栄養分野における最先端の研究機関と共同研究を行い、イノベーションの発掘を中心に活動しています。この分野の理解を深める取り組みとして、2011年から「食と生命のサイエンス・フォーラム」を企画、実施しています。2016年は、東京大学総括プロジェクト機構総括寄付講座「食と生命」、ネスレ栄養科学会議、ネスレ リサーチ東京の共同主催による「食と生命のサイエンス・フォーラム:ヒトの健康と腸内菌叢」を開催しました。

ネスレ栄養科学会議は、日本の栄養科学の進展および科学的な事実に基づいた栄養関連と健康情報の普及を目的として設立されました。前身のネスレ科学振興会が設立された1993年以来、20年以上にわたり栄養科学の発展に寄与する活動を行っています。2016年は8件の研究助成を行いました。

農村開発

ネスレは、世界中の何百万もの農業従事者から原材料を調達しています。こうした農業従事者は、確実で長期的な供給、そしてネスレの成功にとって極めて重要です。これらの材料の生産地、生産方法、そして農業従事者とそのコミュニティが直面する問題について理解し、管理することで、活気あるコミュニティづくりに協力し、ネスレとともに暮らし、ともに働く人々のより良い生活を支援することができます。

「ネスカフェ プラン」
「ネスカフェ プラン」とは、あなたの大切な1杯の「ネスカフェ」、それに関わるすべての人々を“笑顔にする”ネスレの世界的な取り組みです。

サプライチェーンにおける責任ある調達を実施する

ネスレ日本の視点

食品の産地や生産方法について知りたいと考える消費者やステークホルダーがますます増えています。責任ある調達は、ネスレの事業における持続可能な未来のために不可欠な要素です。

ネスレは、トレーサビリティと責任ある調達を実現するため、最も多く調達している原材料、またはネスレの事業にとって最も重要な原材料である12の主要なカテゴリーに重点的に取り組んでいます。これらの原材料の調達にあたっては、『責任ある調達ガイドライン』の基準を順守するよう、サプライヤー監査を実施しています。

ネスレ日本でも、原材料の調達にあたって、『責任ある調達ガイドライン』の基準を順守しています。また、『責任ある調達ガイドライン』を順守するために、第三者機関によるサプライヤー監査を実施しています。

カカオ農家とともに「ネスレ カカオプラン」を実施する

ネスレ日本の視点

ネスレが2009年から開始した「ネスレ カカオプラン」は、品質に見合った価格での買い取りだけではなく、病気に強く、良質なカカオがたくさん実る苗木の提供や、カカオ栽培に関する知識と技術を提供する勉強会の開催、さらには水環境や道路の整備、学校の建設などを通じて、カカオ農家が健やかに生活できるよう、カカオ生産国を支援しています。また、この活動を通じて、男女平等の促進、児童労働問題への対応などにも取り組んでいます。グローバルパート26ページも参照ください。

ネスレ日本でも、「ネスレ カカオプラン」の本格的な取り組みを2014年から開始しました。ネスレ日本が製造する「ネスレ キットカット」、「ネスレ エアロ」全品に「ネスレ カカオプラン」が導入されています。

ネスレ日本が製造する「ネスレ キットカット」、「ネスレ エアロ」全品に「ネスレ カカオプラン」が導入されています。

ネスレのコーヒー生豆サプライチェーンを継続的に改善する

ネスレ日本の視点

「ネスカフェ プラン」とは、あなたの大切な1杯の「ネスカフェ」、それに関わるすべての人々を“笑顔にする”ネスレの世界的な取り組みです。ネスレが提唱する共通価値の創造をコーヒー豆の栽培から製造、流通、消費といったすべての工程を通じて実践することで、消費者の皆さまにコーヒーという1杯の至福を将来にわたって継続的にお届けすることを掲げています。

例えば、コーヒー豆の直接買い付けを増やすことで農家の収入支援や、苗木の配布や技術供与による高品質の原材料確保などを行っています。また、製造・物流プロセスの見直しによる効率化と環境負荷の軽減も図っています。グローバルパート26ページも参照ください。

VOICE

今後もネスレの共通価値の創造における良きパートナーとなることを目指します

社会全体が持続可能な発展を目指す中で、「サプライチェーンにおける責任ある調達」が注目されています。その中で、ネスレは「ネスレ カカオプラン」などに代表されるように、生産者の方々と共通価値の創造を推進されています。社会起点の先進的な取り組みの数々に、サプライヤーとして非常に啓発されます。当社もCSRを推進し、サプライヤー監査等を通じて、今後もネスレの共通価値の創造における良きパートナーとなることを目指します。

不二製油グループ本社株式会社
CSR・リスクマネジメントグループ
シニアマネージャー
四方 敏夫　様

水

水は普遍的な人権です。ネスレのバリューチェーンのあらゆる部分において水は欠かせないものであり、ネスレの社員、サプライヤー、顧客、消費者はすべて、安全で清潔な水と公衆衛生を利用できることが必要です。そして、ネスレとともに働く農業従事者や、ネスレが事業を行うコミュニティも同じです。ネスレはこの貴重な資源の責任ある管理に努め、取水量、水の使用と処理の継続的な改善を目指します。

事業全体における水の利用効率とサステナビリティの向上に取り組む
霞ヶ浦工場のボトルコーヒー製造ラインは、一般的なUHT・ホットパック充填より水の使用量が少なくて済む無菌充填プロセスを採用しています。

事業全体における水の利用効率とサステナビリティの向上に取り組む

ネスレ日本の視点

姫路工場(兵庫県)、島田工場(静岡県)のコーヒー製造工程で導入されている「ノンフロン二元(二酸化炭素／アンモニア)冷凍装置」は節水効果が高く、設置の翌年には冷凍機における水の使用量は、両工場でそれぞれ19%減となり、現在もその水準を継続しています。

また、霞ヶ浦工場(茨城県)のボトルコーヒー製造ラインは、一般的なUHT・ホットパック充填より水の使用量が少なくて済む無菌充填プロセスを採用しています。最新の機械を導入したことで、ネスレが従来採用してきた無菌充填プロセスよりさらに1日あたり約240トンの削減が可能となりました。この量は平均的な世帯が使用する水の量に換算すると、約330世帯分に相当します。

さらに、パートナー企業と共同で、毎年アクションプランの進捗をレビューするウォーターワークショップを開催し、冷却塔のオペレーションの最適化に代表される数々の対策を導入してきました。2010年から2016年までに自社の製造量は62%増加していますが、製品1トンあたりの直接取水量は53%減少しています。

霞ヶ浦工場のボトルコーヒー製造ラインは、ネスレが従来採用してきた無菌充填プロセスよりさらに1日あたり約240トンの削減が可能です。

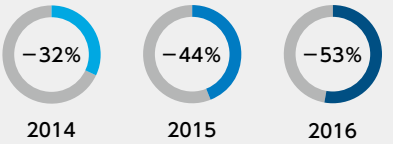
適切に排水を処理する

ネスレ日本の視点

島田工場では、2004年に約3億円を投じて、世界30カ所のネスレのコーヒー工場の中で最初にメタン発酵排水処理システムを導入しました。この排水処理は嫌気性微生物(メタン菌)の効率的な使用により高濃度の排水の中の有機物の分解処理を行い、排水を法規制より厳しい自主規制の清浄度まで排水処理を行います。この排水処理は蒸気などのエネルギーを必要としないため、工場でのエネルギー使用量が大幅に削減され、約12%のCO_2排出量削減につながりました。

さらに2005年からは、このメタン発酵排水処理システムから発生するバイオガス(主にメタンガス)をボイラーの補助燃料として利用しており、これによる省エネ効果は原油換算で毎時約70リットルとなっています。

2010年に対する1トンあたりの直接取水量の削減 (%)



水の保全意識を高める

ネスレ日本の視点

プロジェクトWET(Water Education for Teachers) は教育ツールを用いて世界中の児童の水問題に対する意識の向上を図る国際的な取り組みです。ネスレ ウォーターズ(本部フランス)は1992年からメインスポンサーとしてその活動をグローバルに支援してきました。

日本では、このプロジェクトは公益財団法人河川財団が推進しており、ネスレ日本は2012年から工場を中心に活動を始めています。WETのツールを使って子どもたちを教育することができる「エデュケーター」という資格を持つスタッフがネスレ日本の社内に13名おり、工場近隣の小学生を対象に、水や水資源に対する知識、理解と責任感を深めてもらうよう取り組んでいます。

VOICE **専門的・包括的ソリューションで衛生、品質、生産効率改善に貢献します**

ネスレ日本の生産工程における洗浄・衛生改善を長年サポートさせていただき、水やエネルギーコストの削減、品質、生産効率の向上の取り組みに関わってきたことを誇りに感じています。常に最大限の改善に挑み続けるネスレ日本の食品飲料のトップメーカーとしての意識の高さを教えられつつ、我々も洗浄・衛生のグローバルリーダーとして革新的なソリューションとサービスを提供することで、ネスレ日本の持続可能な成長を支えるパートナーであり続けたいと考えています。

エコラボ合同会社 フード アンド ビバレッジ事業部
コーポレートアカウントディレクター
眞鍋 幸　様

環境サステナビリティ

ネスレは栄養・健康・ウェルネス分野の大企業として、持続可能な消費を実現し、未来の世代のために資源を守ります。ネスレは、持続可能な形で管理された再生可能な資源の使用からさらに効率的な事業活動まで、そして廃棄物ゼロの目標へ向けた取り組みから気候変動対策の実行まで、真の進歩に向けたコミットメントと目標を設定しています。

気候変動リーダーシップを提供する
姫路工場では、LNG（液化天然ガス）をタンクローリー輸送して工場内のLNGサテライト基地に備蓄する燃料供給方式を導入、高い総エネルギー効率を達成しています。

気候変動リーダーシップを提供する

ネスレ日本の視点

ネスレが世界のあらゆる業界に先駆けて開発した「ノンフロン二元(二酸化炭素/アンモニア)冷凍装置」は、姫路工場と島田工場のコーヒー凍結工程に導入されています。二酸化炭素とアンモニアはともに自然冷媒で、システム内を循環し、通常は大気に放出されないため、地球温暖化やオゾン層破壊への影響をほとんどなくすことができます。

ネスレは、「ネスカフェ ゴールドブレンド」などに使用されるフリーズドライコーヒーのプラントにおけるフロン冷媒全廃を目標に、大型冷凍機の15年がかりの脱フロン対策を推進してきました。

モントリオール議定書のフロン撤廃の条約期限を5年前倒しにした世界的なネスレ グローバルイニシアチブを、日本では2011年に達成、2016年には霞ヶ浦工場の「キットカット」製造ラインも含め冷媒保有量30kg以上の中型冷凍機も自然冷媒に変換しました。

「ネスカフェ ゴールドブレンド」などに使用されるフリーズドライコーヒーのプラントにおけるフロン冷媒全廃を2011年に達成しました。

国内の全3工場で2011年から実施してきた液体燃料から天然ガスへの燃料転換は、2015年に完了しました。

姫路工場では、LNG(液化天然ガス)をタンクローリー輸送して工場内のLNGサテライト基地に備蓄する燃料供給方式を導入し、最大92%という高い総エネルギー効率(一般的には70〜80%)を達成しています。液化天然ガスは重油に比べ、大気汚染につながる窒素酸化物(NOx) や硫黄酸化物(SOx)、また地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を低減することができます。テクノロジーの先進性と先導性が高く評価され、第9回新エネ大賞(新エネルギー財団)を受賞しました。

また、姫路工場に導入しているコージェネレーションシステムは、熱電併給とも呼ばれ、発電時に発生した排熱のエネルギーを有効利用することで総エネルギー効率を高めるエネルギー供給システムです。

製品1トンあたりの温室効果ガス直接排出量 (kg of CO_2eg) scope 1+2

2017年2月、ネスレ日本は、東京で開催された空調・冷凍冷蔵の世界的なイベント「ATMOsphere Japan 2017」に参加、ネスレの冷凍機の自然冷媒変換に関するコミットメントとフロン系冷媒削減についてプレゼンテーションを行い、その先駆的な取り組みについて紹介しました。

「ATMOsphere Japan 2017」

−24 %
総直接取水量

−11 %
総温室効果ガス直接排出量
scope1+2

−26 %
総エネルギー使用量

ネスレ日本の自社工場での生産量は2010年から2016年までに62%増加していますが、
同期間に、総直接取水量を24%、総排水量を28%、総温室効果ガス直接排出量を11%、総エネルギー使用量を26%、それぞれ削減しました。

食品ロスや廃棄を削減する

ネスレ日本の視点

ネスレは、廃棄物ゼロを目指してグローバルでさまざまな取り組みを行っています。その一環として、ネスレ日本の工場では製造過程での廃棄物はもとより、工場から出る一般ゴミの減量にも配慮しています。

姫路工場と島田工場では、コーヒー抽出工程で排出されるコーヒーかすのほぼ100%を燃料として再利用し、その燃焼エネルギーで発生した蒸気を工場の熱源として利用しています。この流動床ボイラーによるコーヒーかす熱エネルギー回収システムは、1983年に日本で初めて島田工場に導入され、1986年には姫路工場にも導入されました。また、島田工場は、2010年から、製造過程で発生するコーヒーかすの一部を培養土にリサイクルする活動も続けています。

姫路工場では、燃料による年間エネルギー使用量の約20%がこのコーヒーかす（バイオマス）サーマルリサイクルで賄われており、このシステムは先導的なバイオマス活用の取り組みとして兵庫県の「ひょうごバイオマスecoモデル」第31号に登録されました。

「キットカット」を製造する霞ヶ浦工場では、食物残さの全量飼料化に取り組んでおり、包装工程後に、チョコレートと包装材料を分離する機械を導入、分別と資源活用を効率化しています。

これらの取り組みを推進した結果、2016年、国内の全3工場で焼却・埋立廃棄物ゼロを達成しました。

食品ロス削減の取り組みとして、ネスレ日本は「セカンド・ハーベスト・ジャパン」と「フードバンク関西」が弱者支援として定期的に実施している食料の無償配布活動に賛同し、飲料やチョコレートなどの商品を温度管理や再流通の防止策をお願いした上で提供しています。

ネスレ製品パッケージの環境パフォーマンスを改善する

ネスレ日本の視点

2016年、ネスレ日本グループは、包装材料の形状変更により302トンの軽量化を達成しました。削減を達成した主な分野は以下のとおりです。

- ガラス：−105トン
- 紙包装材料：−183トン
- プラスチック、ラミネートフィルム：−14トン

「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」と「ネスカフェ エコ&システムパック」（詰め替え製品）を組み合わせた製品で、段ボールの仕切りを改善して緩衝材の使用を取りやめました。この改善は公益社団法人 日本包装技術協会主催の「2016年日本パッケージングコンテスト」で輸送部門賞を受賞し、2015年から2年連続受賞することができました。

製品が環境に与える影響を評価し最適化する

ネスレ日本の視点

ネスレ日本は、モーダルシフト（大量輸送できる鉄道輸送と海運輸送への転換）を推進しています。地球温暖化の原因の一つとされる二酸化炭素の排出量において、鉄道輸送の環境負荷はトラック輸送の約8分の1、また、船舶輸送は約4分の1とされています。

今後もパートナー企業や団体との協力を通じて、バリューチェーン全体の環境パフォーマンスの向上を目指します。

ネスレ日本のモーダルシフトへの取り組み

2010年： 製造工場から北海道への輸送をすべてフェリーに転換。「エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者」に認定。

2012年： モーダルシフトへの取り組みを本格的に強化。

2013年： 国の環境事業である平成25年度「モーダルシフト等推進事業」として認定。

2014年： 「モーダルシフトの取り組みに関する宣言と確認」をJR貨物グループと共同で作成、鉄道への転換を積極的に推進することで合意。

2015年： 「エコレールマーク」認定企業を取得。ネスレ日本、川崎近海汽船株式会社、一般財団法人日本気象協会の3社で海運により日本のモーダルシフトを推進することで合意。

ネスレ日本のモーダルシフト表彰受賞歴

2014年： 平成26年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰国土交通省物流審議官表彰受賞。

2015年： 平成27年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰国土交通大臣賞受賞 / ネスレ日本が参加する神戸モーダルシフト推進協議会が、第16回物流環境大賞 物流環境保全活動賞受賞 / ネスレ日本が自社のモーダルシフトの取り組みについてまとめた論文が鉄道貨物振興奨励運営委員会の最優秀賞に選出。

2016年： 3社での海運によるモーダルシフト推進で、第17回物流環境大賞受賞。

2017年： グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を共同受賞 / 「平成28年度省エネ大賞」で製品・ビジネスモデル部門の「経済産業大臣賞（ビジネスモデル分野）」を共同受賞。

エコドライブの推進

ネスレ日本 営業本部 東京支社および広域流通グループが、「平成28年度エコドライブ活動コンクール」で環境大臣賞（一般部門）を受賞しました。

エコドライブは、地球温暖化対策のCO_2排出抑制策として国民の誰もが手軽に実施できる取り組みです。エコドライブ普及連絡会（警察庁、経済産業省、国土交通省、環境省）を中心に、関係団体が協力して推進されています。

有意義で正確な環境情報を提供し対話する

ネスレ日本の視点

ネスレは、多種多様な消費者との接点で環境サステナビリティに関する情報を提供し、環境問題に対する消費者の関心と意識の高まりに応えています。

その一例が、スマートフォンなどのモバイル技術を利用して、ラベル表示以上の情報を提供するサービスです。

ネスレ日本でも、「ネスカフェ ボトルコーヒー」、「ネスレ ミロ」、「キットカット」（一部製品）、「ウォンカ」、「ネスレ ネスクイック」のパッケージにQRコードを表示し、環境情報をはじめとするさまざまな情報を提供しています。

VOICE 環境負荷低減に向けて、鉄道輸送の拡大とともに内航船の利用検討も進めてまいります

当社は、イオングループのサプライチェーンの効率化を実現し、物流における環境負荷低減に取り組んでいます。「イオン鉄道輸送研究会」を発足し、JR貨物さま、鉄道利用事業者さま、およびナショナルブランド（NB）メーカー各社さまに参画いただき鉄道利用の拡大を進め、ネスレ日本およびNBメーカー3社さまと繁忙期の日曜日を限定とした共同専用列車の運行を東京～大阪間で実現しました。この取り組みは、平成27年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰経済大臣賞を受賞しました。今後も環境負荷低減に向けて、鉄道輸送の拡大と共に、内航船の利用検討も進めてまいります。

イオングローバルSCM株式会社
代表取締役社長
山口 緑 様

VOICE 今後も、時代の求める物流を目指して航路展開を進めてまいります

当社では、船舶によるモーダルシフトを推進することで、環境問題の改善、トラック運転手不足の問題解消を目指しております。

2016年10月に関東・甲信と九州間の長距離トラック輸送のモーダルシフトを目的として、清水-大分定期RORO船航路を開設しましたが、ネスレ日本は一早くこの新ルートに着目され、新しい物流ルートとして採用いただきました。

今後もネスレ日本と共に、時代の求める物流を目指して航路展開を進めてまいります。

川崎近海汽船株式会社
代表取締役社長
石井 繁礼 様

人材、人権とコンプライアンス

ネスレは191カ国で事業を展開し、32万8,221人の社員が働く多様性のある企業です。ネスレの価値観は敬意に根差しています。私たち自身への敬意、他者への敬意、多様性への敬意、そして未来への敬意です。よい職場環境を提供し、社員の安全、健康、意欲を維持することは、ネスレの最優先事項です。また、ネスレにはバリューチェーンにおいて人権を尊重、推進し、最も高い倫理基準に従って事業を行う責任があります。

社員の男女比バランスを向上する
ネスレ日本は、社員の男女比バランスの向上を実現するため、取り組みを推進しています。

組織全体で誠実な企業風土を醸成する

ネスレ日本の視点

人権と労働慣行、誠実な事業活動、安全衛生、環境、セキュリティの5分野で外部の監査ネットワークをベースとしたネスレ独自のCAREプログラムが2007年からネスレ日本グループの全事業所で実施されています。

また、コンプライアンスに関する社内での意識啓発活動や、新入社員、マネジャーを対象にしたコンプライアンス研修を行っています。

ネスレにおけるコンプライアンスとは、『ネスレの経営に関する諸原則』を実践することです。社員一人ひとりがこのことをより深く理解し、職場やステークホルダーとの関わりの中で自信を持って実践できるようさまざまな支援を行っています。2017年からは、全社員を対象にEラーニングによるコンプライアンス研修を新たに導入しました。

認証を受けた安全衛生マネジメントシステムでネスレの全社員を守る

ネスレ日本の視点

ネスレは、安全衛生が社内の最優先事項となる風土の醸成に努めており、職務関連の傷害や疾病をゼロにすることを目指しています。

OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）をネスレ日本の全事業所で取得済です。各職場での安全に対する意識向上を呼びかけています。また、全事業所で実施するリスクマネジメントをもとに安全運転にも注力しています。

安全運転の推進

安全運転の推進にも注力しています。毎月、事業所別の状況をモニターするほか、社用車を運転する社員には定期的に上司が同乗して安全運転をチェックするなど、全事業所で車両事故撲滅を目指して取り組んでいます。

社員の男女比バランスを改善する

ネスレ日本の視点

さまざまな違いを持つ社員が集まった組織の方が新しい発想やイノベーションが生まれやすくなると考え、ネスレはダイバーシティの推進に取り組んでいます。

社員の男女比バランスの向上に取り組んだ結果、現在、ネスレ日本グループの社員の女性比率は2010年と比較してほぼ倍増し、約3割となりました。

また、女性マネジャーの割合を2020年に20%まで引き上げるという目標達成に向けて、引き続き取り組みを推進しています。

女性のキャリア継続や男性の育児参加を促すため、育児休業を男女ともに最大10日間有給化するとともに、2012年に霞ヶ浦工場に事業所内保育園「ねすれっこはうす」、2014年に神戸本社内に託児ルーム「ネスレ キッズルーム」を開設しました。

2017年には、ネスレ日本型ホワイトカラー・エグゼンプションが導入されました。働く時間と場所を最大限自由化したフレキシブルな働き方が可能となり、社員はワークライフバランスを保ちながら、より成果を出せる働き方を自分で選択できるようになりました。

また、ネスレは毎年、国際女性の日（3月8日）にあわせて世界各国でイベントを開催しています。2017年は、ネスレ日本でも社員向けに座談会イベントを実施、役員や子育て中の社員などがパネラーとして参加し、ダイバーシティとインクルージョンについて意見を交わしました。

社員とステークホルダーに実効性のある苦情処理の仕組みを提供する

ネスレ日本の視点

ネスレは、全世界で不適切または違法な事例や行為があれば報告するよう、社員やサプライヤー、ステークホルダーに促しています。すべての苦情内容が公平かつ適切に調査されます。また、報告に対する報復は禁じられています。

ネスレ日本では、2009年に「ネスレ ホットライン」が導入され、コンプライアンス違反や違反の可能性に気付いた社員からの通報を受け付けています。すべての通報は公正に秘密を厳守して対応され、通報した社員がそれを理由に不利益を被ることはありません。

事業全体においてグローバルユース・イニシアチブを実施する

ネスレ日本の視点

ネスレ日本は、多様な学生の採用を目的とした新しい方法として、インターンシップを重視した「ネスレパス」コースを導入しています。選考時期と方法を学生が選べ、何度でも挑戦することができる通年採用選考プロセスです。

2015年からは、従来実施していたエントリーシートとWEBテストを廃止し、「ネスレ 8daysミッション」を導入しました。これは、ネスレを志望する学生が、8日間連続で1日1問出題されるビジネスケースや課題に回答し、入社への熱意やビジネスセンスをアピールするという採用選考方法です。

また、エンジニア職を対象とした5日間のサマーインターンシップを実施しています。参加者に、実務体験やグループワーク、プレゼンテーションを通して、プラントエンジニアとしての基本を習得してもらうことが目的です。

内定後の主体的なキャリア形成は、「ネスレアソシエイト制度」でサポートします。内定者(アソシエイト)が“ネスレ流”の育成に触れ、しっかりと入社までの準備をしてもらい、学生生活をより充実したものにできるよう支援します。入社直前には、学生ならではのフレッシュな発想で、ネスレのビジネスに直結したイノベーションアイデアの実現に取り組み、その成果を役員に対してプレゼンテーション形式で発表します。机上にとどまらないマーケティングや実務経験を通じて、成長を後押しします。

入社後は、社員の育成やキャリア開発を目的とした多様な学習機会やツールが用意されています。一例が、2013年にスタートしたネスレグループ内の海外人事交流プログラムです。ネスレ日本の社員には海外のネスレ現地法人で勤務する機会があります。それと並行してネスレ日本は各国から社員を受け入れています。

『ネスレの経営に関する諸原則』、栄養、環境サステナビリティに関する研修を社員に実施する

ネスレ日本の視点

『ネスレの経営に関する諸原則』をより深く理解して実践するために、研修を実施しています。また、社員の意識の向上を図るため、イントラネットやニュースレターを通じて定期的に社内コミュニケーションを図っています。

社員向けの栄養と健康教育として、2007年から世界のネスレで「NQニュートリショントレーニング」を実施しています。日本でも継続的に全社員(新しく入社した社員、マーケティングや開発関係者向けを含む)を対象に研修を実施しているほか、種々のツールで社員の栄養知識向上を図っています。

環境サステナビリティについては、スイス本社が制作したEラーニング研修をネスレ日本でも実施しています。2016年は、主に生産本部に所属する社員を対象に実施し、約200名が修了しました。

「NQニュートリショントレーニング」

健康的な職場と
社員の健康増進を奨励する

ネスレ日本の視点

ネスレは、「生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献します」という存在意義を実現するため、健康的な職場環境と社員の健康増進を奨励しています。

ネスレ日本は、全社員のワークライフバランスと生産性向上の両立の実現を目指して、働き方改革を推進しています。5日連続有給休暇の取得促進や19時退社の徹底、また営業部門では社外でも効率的に勤務可能な直行直帰体制への環境整備等を進め、2016年には社員自身が働く場所や時間を自由に選べる新しい働き方を導入しました。

こうしたネスレ日本の柔軟で働きやすい環境づくりと社員の生産性向上への取り組みが評価され、2016年、「テレワーク推進企業等厚生労働大臣表彰(輝くテレワーク賞)」の最高賞である「優秀賞」を受賞しました。

テレワークで働くネスレ社員

VOICE

今後もテレワークのさらなる活用を期待しています

テレワークは、時間や場所を有効に活用できることから、子育てや介護と仕事の両立の手段となり、多様な人材の能力発揮が可能となる働き方として注目を集めています。
ネスレ日本では、テレワークによって働く方の生産性やワークライフバランスの向上など、多くの成果を上げておられます。
今後もテレワークのさらなる活用を期待しています。

厚生労働省 労働基準局
勤労者生活課長
平嶋 壮州　様

日本の社会問題への取り組み

ネスレ日本は共通価値の創造を推進するにあたり、社会問題を解決することを第一に考えています。それはすなわち、さまざまなステークホルダー（顧客）の皆さまが抱えている問題を解決することです。

被災地に人のつながりを取り戻す
熊本地震の被災地の方々が少しでも元気に過ごしていただけるよう集いの場づくりを進めています。

社会的な孤独や孤立を解消する

ネスレ日本の視点

少子高齢化が進む日本社会では、世帯構造が大きく変化しつつあり、単身世帯や少人数世帯が増加、核家族化が進んでいます。離れた土地で暮らしている家族とのコミュニケーションは、どうしても希薄になりがちです。離れて暮らす家族の生活の変化を確認するための製品やサービスへの関心が高まっています。

ネスレ日本の「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ i[アイ]」は、IoTで人と人のつながりを生み出す次世代のコーヒーマシンです。「バリスタ i[アイ]」を所有する家族や友人を「ネスカフェ アプリ」で“友達リスト”に登録すれば、その人が「いつ、どんな気分でコーヒーを飲んだか」がわかる仕組みになっており、遠く離れた両親の安否確認や、友人とのコミュニケーションのきっかけにもなります。コーヒータイムを通じて遠く離れた相手とのつながりも生み出していきます。

少子高齢化による日本社会の変容は、地域社会にも影響を与えました。社会環境やライフスタイルの変化により、地域コミュニティの数が減少し、従来コミュニティが担っていたはずの絆が失われ、地域意識や地域のつながりが希薄になっています。

2013年、兵庫県神戸市とネスレ日本は、「こうべ 元気! いきいき!! プロジェクト」の連携協定を締結しました。栄養や健康に関するノウハウを活かし、高齢者の生活の質の向上に貢献しています。取り組みの一つである「介護予防カフェ」に「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」などを提供し、「ネスカフェ」を楽しみながら語らう集いの場づくりを応援しています。すでに神戸市内の約60カ所に広がり(2017年5月現在)、地域コミュニティの活性化に貢献しています。

「ネスカフェ アンバサダー」

「ネスカフェ アンバサダー」は、「ネスカフェ」のコーヒーマシンを職場やコミュニティでご活用いただくサービスです。一杯のコーヒーを基点に会話や笑顔が広がる“コミュニケーションの活性化”に貢献します。

「ネスカフェ」を通じて地域活性化

ネスレ日本は、秋田県大館市と連携協定を2016年に締結、「ネスカフェ」の提供を通じて大館市が抱える課題を解決する「地域活性化プロジェクト」をスタートさせました。ネスレ日本がリースする「ネスカフェ サービスカー(キッチン付き車輌)」と「デリバリーカー(冷蔵車輌)」を地元の委託事業者が使用し、「ネスカフェ」などのネスレ製品、地場産の野菜を使ったお惣菜や麺類・お弁当や地場野菜などを販売、買い物弱者の問題解決を支援しています。

2017年3月には、株式会社九州TSUTAYAとともに、移動型カフェ&ブックワゴン「ReaDrink WAGON」を福岡県志免町でスタートしました。地域住民が気軽に集まりコミュニケーションができる場をつくり、新しいゆるやかなコミュニティを形成することを目指します。

VOICE いつもバイタリティと活気にあふれています

旧事務所からの移転がきっかけで、「ネスカフェ アンバサダー」になりました。一昔前の旅行会社と違い、アイデアのブレストやお客さまの課題解決のためのソリューション提案など、「頭脳」や「知恵」を使う場面が多くなっていますが、行き詰ると「ネスカフェ」でリフレッシュしてコミュニケーション。支店内はいつもホスピタリティ、バイタリティと活気にあふれています。

「ネスカフェ アンバサダー」を利用されている
近畿日本ツーリスト株式会社 京都支店　様

被災地に人のつながりを取り戻す

ネスレ日本の視点

想像を超える大規模な災害が発生すると、仮設住宅への入居や他地域への人口流出が起き、既存のコミュニティが解体されてしまいます。被災地がさまざまな課題を乗り越えていくためには、地域コミュニティを強化し、人のつながりを取り戻すことが必要です。特に、地縁的な関係のなかった住民が多く住む仮設住宅では、住民主体で新しいコミュニティをつくることから始めなければなりません。

2016年4月に発生した熊本地震は、大規模な被害を九州地区にもたらしました。ネスレ日本は、地震の発生直後から、支援物資や社員からの義援金を提供しました。その後も、「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ GACKTモデル」の売上の全額寄付、義援金が商品価格に含まれた「キットカット Bigリトル くまもと茶」の全国発売など、継続的に被災地への支援活動を行っています。

現在は、被災地の方々が元気に過ごしていただけるよう、「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」をはじめとするネスレ製品を提供し、仮設住宅の集会所で集いの場づくりを積極的に進めています。集いの場は、すでに熊本県内の45カ所に広がりました（2017年5月現在）。

これからもネスレ日本は、少しでも被災地の皆さまのお役に立てるように支援活動を続けてまいります。

ネスレ ピュリナ ペットケア

ネスレ ピュリナ ペットケアは、ペットとペットオーナーに喜んでいただくことを通じて、ペットフードカンパニーから真のペットケアカンパニーに発展することを目指しています。ペットを飼う上での社会的な問題解決をする、ペットとペットオーナーの幸せな関係継続をサポートする、ペットの健康寿命延伸をサポートする、などの取り組みを通じて、フードカンパニーの枠組みを超えた、付加価値のあるサービスを提供していきたいと考えています。

ペットに関する社会的な問題の一つが犬や猫の殺処分です。この問題に着目したネスレ ピュリナ ペットケアは、保護された猫の里親探し活動の支援に2016年から取り組んでいます。

VOICE 気軽に立ち寄り、リラックスできる仮設カフェとなるよう期待しています

熊本地震の被災地にある仮設住宅には、集会所が設置されています。集会所に集い、語り合うことでコミュニケーションを活性化するため、ネスレ日本の協力をいただき、コーヒーマシンを集いの場で活用しています。仮設住宅等での孤独死は熊本地震の被災地でも問題となっています。コーヒーでほっと一息リラックスしてもらい、互いの悩みなどを話し合えば、孤独感も薄れます。気軽に立ち寄り、リラックスできる仮設カフェとなるよう期待しています。

熊本市社会福祉協議会 北区事務所長
（元 熊本市災害ボランティアセンター 副センター長）
宮原 栄志　様

健康的なライフスタイルに貢献する

ネスレ日本の視点

ネスレ日本は、抹茶をコーヒー、チョコレートに次ぐ第三の柱と位置付け、さまざまな製品とサービスを通じて抹茶の新しい楽しみ方を提案しています。世界中で注目を集めている抹茶は、健康維持の面からみると飲用時に一般の緑茶よりもポリフェノールを多く摂ることができるという特徴を持つ食品です。

2016年11月、京都府とネスレは「宇治抹茶の振興に関する連携協定」を締結しました。双方の強みを活かしながら、「抹茶と健康」の啓発や研究を視野に入れて活動を開始しています。大きな可能性が見込まれる「宇治抹茶」の消費を拡大し、日本はもちろん、世界的なブランドにするための取り組みを推進してまいります。

また、今後は、連携協定を締結した京都府とともに、抹茶と健康に関する啓発や研究を視野に入れて活動を行い、健康面からみた抹茶の魅力も消費者の皆さまへお伝えしていきます。

KYOTO×NESTLÉ
UJI MATCHA PROJECT

「ネスレ ウェルネス アンバサダー」

ネスレ日本は、2017年3月、「ネスレ ウェルネス アンバサダー」をスタートしました。

「ネスレ ウェルネス アンバサダー」は、自分に不足しがちな栄養が何かがわかり、抹茶でおいしく不足しがちな栄養を補うことができるというサービスです。

ネスレが「ネスカフェ アンバサダー」で培った経験や実績を活かして、家庭や職場に新しい健康習慣をお届けします。

VOICE 宇治抹茶を世界に広げる「宇治抹茶の振興に関する連携協定」

京都府では、「宇治抹茶」の振興を通じて、「宇治抹茶」を世界的なブランドにすることを目指し、京都の魅力発信につなげることを目的に、ネスレ日本と協定を締結しました。

京都府南部の山城地域は、抹茶、玉露、煎茶を生み出した日本茶のふるさとです。この地域で育まれた宇治茶の素晴らしさを伝えるために世界文化遺産登録に向けた取り組みを進めており、ネスレ日本には、文化面や産業面から「宇治抹茶」の世界展開を大変期待しています。

京都府農林水産部
農産課 宇治茶担当課長
丸 直裕　様

重要課題

「重要課題」については、グローバルパート44ページを参照ください。

重要課題の評価

ネスレは、数年前からグローバルな観点で、ネスレのビジネスとステークホルダーにとっての課題を特定し、継続的に各課題の重要度を評価しています。

ネスレ日本では、2015年から日本特有の社会課題を考慮したネスレ日本の重要課題を特定しています。重要課題はグローバルと同様に2年ごとに見直しており、今回、CSRコンサルティング企業の株式会社クレアンの協力を得て再評価しました。

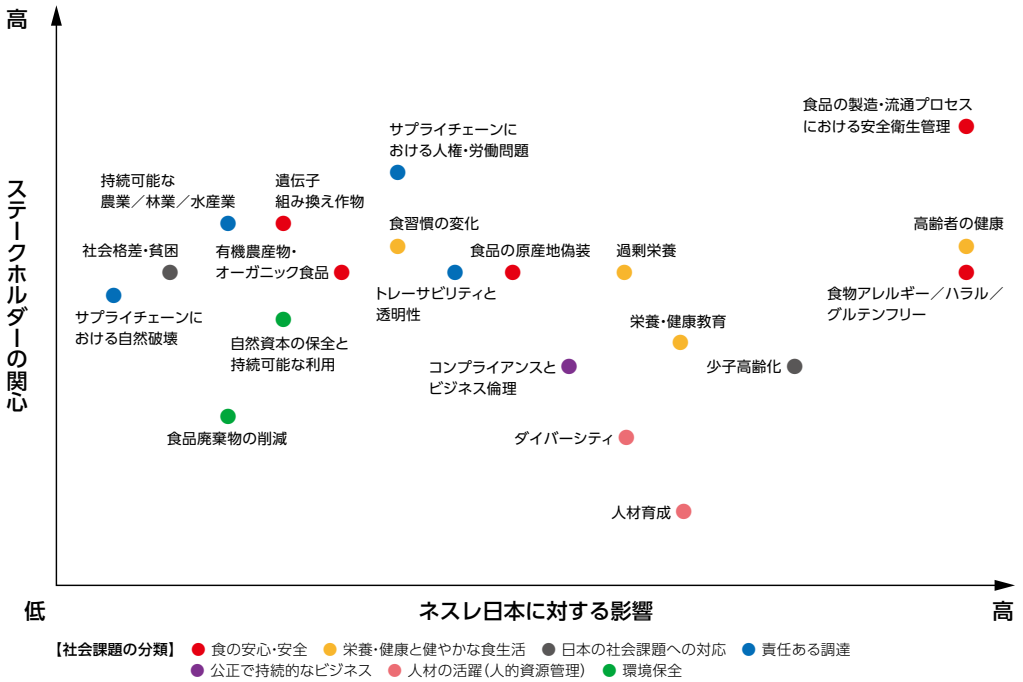
その際、国連持続可能な開発目標(SDGs)など、最近の社会要請を踏まえて抽出した50の課題について、さまざまな専門分野のステークホルダーとネスレ日本の社内関係者にアンケートを行いました。アンケートでは、ネスレ日本のビジネスに与える影響度を踏まえ、各課題の重要度を再評価しました。

アンケート結果に基づき、外部ステークホルダーによる重要度を縦軸に、社内関係者による重要度を横軸に取って、マトリックスを作成しました。このマトリックスでは重要度が高かった20の課題を重要課題として整理しています。

ネスレ日本が取り組むべき課題は、以下の通り分類されます。

- 「食の安心・安全」:食品の製造・流通プロセスにおける安全衛生管理、食物アレルギー/ハラル/グルテンフリー等への対応、食品の原産地偽装など
- 「栄養・健康と健やかな食生活」:過剰栄養、栄養・健康教育、食生活の変化、高齢者の健康
- 「日本の社会課題への対応」:少子高齢化、社会格差・貧困
- 「責任ある調達」:サプライチェーンにおける人権・労働問題、トレーサビリティと透明性の確保など
- 「公正で持続的なビジネス」:コンプライアンスとビジネス倫理
- 「人材の活躍(人的資源管理)」:ダイバーシティ、人材育成
- 「環境保全」:自然資本の保全と持続可能な利用、食品廃棄物の削減

「食の安心・安全」、「栄養・健康と健やかな食生活」などはグローバルで共通する分類ですが、個別課題では、高齢者の健康や少子高齢化などは日本特有の重要課題になっています。

各課題がネスレ日本のバリューチェーンに及ぼす影響を考慮し、ステークホルダーとの直接の対話を通じて、重要課題に対するアクションを考えてまいります。

ネスレ日本の重要課題マトリックス